

平成15年度 病害虫発生予報 第8号

平成15年8月28日
発表：福島県病害虫防除所

1 主要病害虫の発生状況と発生予想（多 やや多 並 やや少・少 - 対象外）

作物名	病害虫名	発生状況 (平年比)				予想発生量 (平年比)	備考
		県北	県南	会津	浜		
水 稲	いもち病 (穂いもち) 斑点米かみシ類 セジロウンカ	-	-	-	-		いもち病の浜通り山沿いは多
大 豆	紫斑病 カメムシ類	-	-	-	-		
リンゴ	斑点落葉病 褐斑病 キンモンホソガ		·	-	-	-	新梢葉 " " "
果樹共通	ナビメシソクイ カメムシ類 ハダニ類		·	-	·	·	果実被害 "
キュウリ (夏秋露地)	ベと病 うどんこ病 炭疽病 褐斑病 ワタリケンメイガ		-	-	-	-	
トマト (夏秋被覆)	葉かび病 灰色かび病 オシツコナジミ	-	-	-	-	-	
ピーマン	斑点病 タバコガ類		-	-	-	-	
いちご	うどんこ病 オシツコナジミ						
アスパラガス	茎枯病 斑点病	-	-	-	-	-	
リンドウ	花腐菌核病	-	-	-	-	-	
野菜・花き 共 通	ハダニ類 オオタバコガ						

予報の根拠の中で(+)は多発要因、(-)は少発要因、(±)は並発生要因であることを示す。

A 普通作物 発生予報と防除対策

イネいもち病(穂いもち)	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	時 期	遅い			
	発 生 量	多	並	やや多 (山沿い)	

1 予報の根拠

8月13日付で、穂いもちの病害虫発生予察警報を発表したが、その後も降雨が続き、十分な防除が実施されていない(+)。

葉いもちの発生は、会津地域では昨年と同様に少ないが(-)、県北、県南および浜通りの山沿いで8月上旬以降急増した(+)。

穂いもちの発生に影響する上位葉での葉いもちが、8月以降に急増した。さらに、本年は、下位葉の枯れ上がりが弱く、下位葉の病斑が穂いもちの伝染源となることが懸念される(+)。

出穂期が平年より4~14日遅く、8月下旬以降も上位葉での葉いもちの増加が認められる(+)。

一部の品種で障害型不稔が予想され、穂いもちの発生の助長が懸念される(+)。

葉いもちの予防粒剤(箱粒剤を含む)を施用したほ場でも、穂いもちが確認されたので、これらのほ場でも、穂いもちの発生が懸念される(+)。

天候予報(8月22日発表の1か月予報)によると、向こう1か月は気温、降水量が平年並と予想されている(±)。

2 防除上注意すべき事項

病害虫発生予察警報 第1号(8月13日発表)を参考に適正防除に努める。

穂いもちを対象に散布剤を使用する場合は、穂ばらみ末期と穂揃期の2回の薬剤散布が必須であるが、さらに、多発が予想される場合は、傾穂期の散布を追加する。

すでに穂いもちに対する水面施用剤を使用しているほ場でも、葉いもちが発生している場合は、散布剤による追加防除を行う。

本年は低温の影響で生育が平年より遅く、地域、田植日、品種によって出穂時期に差が見られるので農薬の使用については、病害虫防除情報ファクスサービス「ファピイ」情報番号29番を参考にする。なお、薬剤の選定、使用回数、使用時期に留意する。

斑点米カメムシ類	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 量	並			やや多

1 予報の根拠

7月下旬~8月上旬の水田畦畔すくい取り調査の結果、アカヒゲホソミドリカスミカメが県内各地で見られたが(+)、ホソハリカメムシの発生は少なかった(-)。

出穂直後の水田内すくい取り調査の結果、浜通りのクモヘリカメムシの発生は近年発生の多かった年と同程度であった(+)。

一部の品種で障害型不稔の発生により、割れ粒の発生が予想される(+)。

無人ヘリを利用した斑点米カメムシ類の共同防除が一部で実施されている(-)。

天候予報によると、向こう1か月の気温と降水量は平年並と予想されている(±)。

2 防除上注意すべき事項

薬剤防除する場合は、薬剤の使用時期(収穫前日数)および使用回数に注意する。県防除基準(訂正版)p.33、および「ファピイ」情報番号26番参照。

セジロウンカ	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 量	並			やや多

1 予報の根拠

予察灯(相馬市、会津坂下町)で8月中旬に多く誘殺された(+)。

8月下旬の水田内すくい取り調査の結果、南会津で多くすくい取られ、発生もやや多い(+)。

2 防除上注意すべき事項

会津など発生量の多い地域では被害が発生することが考えられるので、これから薬剤防除を行う場合は、薬剤の使用時期(収穫前日数)および使用回数に注意して行う。県防除基準(訂正版)p.34~35参照。

ダイズ紫斑病	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 量	並			

1 予報の根拠

集団栽培地等ではカメムシ類との同時防除が実施されている(-)。

天候予報によると、向こう1か月の気温と降水量は平年並と予想されている(±)。

2 防除上注意すべき事項

薬剤防除を行う場合は、薬剤の使用時期(収穫前日数)に注意する。県防除基準(訂正版)p.53、および「ファピイ」情報番号28番参照。

適期に刈取りし、速やかに脱穀・乾燥・調製を実施する。

カメムシ類(ダイズ)	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 量	並			

- 1 予報の根拠
　　昨年の発生量がやや多かった(+)。
　　集団栽培地等で無人ヘリなどを利用した共同防除が増加している(-)。
- 2 防除上注意すべき事項
　　被害は刈取りまで長期に及び、莢伸長期では莢の黄変や落莢、子実肥大期では子実が被害粒となる。
　　薬剤防除を行う場合は、薬剤の使用時期(収穫前日数)に注意する。県防除基準(訂正版)p.53および「ファピイ」情報番号28番参照。

B 果 樹 発生予報と防除対策

リンゴ斑点落葉病	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 量	やや多		並	-

- 1 予報の根拠
　　巡回調査の結果、過去5か年の発生量の平均に比べ、県北・県南地方では並(±)、会津地方ではやや少であった(-)。
　　8月22日発表の向こう1か月の天候予報によると、気温、降水量は平年並と予想されているので、本病の葉での発病好適条件(20~30)、果実の発病好適条件(15~25)になり、秋期前線の活発化などで発病が助長される可能性が高い(+)。
- 2 防除上注意すべき事項
　　不要な徒長枝葉は罹病しやすいので、隨時剪除する。また、本病により落葉した葉は伝染源になるので落葉処理を行う。
　　県防除基準(訂正版)p.162にしたがい、樹全体に薬液が十分かかるように散布する。

リンゴ褐斑病	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 量	並		やや少	-

- 1 予報の根拠
　　過去3か年の発生量の平均に比べ、県北地方(福島市は並、伊達地方は未確認)・県南地方ではやや少の発生であったが(-)、発生場所割合は多~やや多であった(+)。会津地方の発生量は少なかった(-)。
　　各地方とも7月の調査結果に比べ、発病葉率、発病場所割合が増加している(+)。
　　向こう1か月の天候予報によると、気温、降水量は平年並と予想されているが、秋雨前線の活発化などにより発病に好適な条件になる可能性が高く、本病が蔓延する恐れがある(+)。
- 2 防除上注意すべき事項
　　中晩生種では、県防除基準(訂正版)p.162にしたがい、特別散布を実施する。なお、薬剤の使用時期(収穫前日数)や使用回数の制限に注意すること。なお、早生種では収穫後に実施する。
　　罹病落葉は翌年の伝染源になるので、丁寧に集めて土中深く埋没する。

キンモンホソガ(リンゴ)	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 量	並		-	-

- 1 予報の根拠
　　過去4か年の発生量の平均に比べ、県北(福島市で未確認であったが、伊達地方で多)、県南、会津地方も平年並であった(±)。
　　向こう1か月の天候予報によると、気温、降水量は平年並と予想されている(±)。
- 2 防除上注意すべき事項
　　発生が多い園の晩生種では、県防除基準(訂正版)p.162にしたがい、特別散布を実施する。なお、薬剤の使用時期(収穫前日数)や使用回数制限をに注意し薬剤を選択する。
　　発生の多かった園では落葉を丁寧に集めて土中深く埋没し処分する。

ナシヒメシンクイ 第3世代成虫発生盛期 (リンゴ、ナシ)	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 時 期	やや遅い			
	発 生 量	やや多	少	並	

1 予報の根拠

巡回調査の結果、リンゴでの果実被害は各地方とも確認されなかった(-)。

ナシでは既に第3世代幼虫による果実被害が各地方(会津を除く)で認められている。県北・県南地方は例年に比べ発生量は多であり(+)、浜通り地方では平年並であった(±)。

冷夏の影響で第4世代の幼虫ふ化盛期は、各地方ともに平年に比べ遅れる見込みである。したがって、ナシの晩生種やリンゴでの被害が懸念される(+)。

2 防除上注意すべき事項

被害果は見つけ次第摘除し、土中深く埋める。

9月中旬頃までに、バンド誘殺を行い、幼虫が潜入し終わった頃を見計らって取り外し、土中深く埋め込む。

薬剤による防除については、ファピイ36番を参照する。

カメムシ類 (リンゴ、モモ、ナシ、ブドウ)	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 量	並	やや多	やや少	

1 予報の根拠

リンゴでの果実被害は、県北地方で並(±)、県南地方でやや多く(+)、会津地方では確認できなかった(-)。

ナシでの果実被害は、県北地方で少(-)、県南地方でやや多(+)、浜通り地方でやや少であった(-)。

カキ(会津地方)ではカメムシ類の被害果は確認されなかった(-)。

向こう1か月の天候予報によると、気温、降水量は平年並と予想されている(±)。

2 防除上注意すべき事項

山間・山沿いの果樹園では、カメムシ類の発生状況に十分注意する。特に県南および浜通り地方の南部では、引き続き注意する。

成虫の飛来が多数認められる場合、県防除基準(訂正版) p.167、212、214、215にしたがい薬剤による防除を行う。

ハダニ類 (リンゴ、モモ、ナシ)	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 量	やや少			少

1 予報の根拠

巡回調査の結果、発生量は浜通り地方では少(-)であった以外、他の地方ではやや少であった(-)。ただし、県北地方一部で多発園が認められた。

向こう1か月予報によると、気温、降水量は平年並と予想される(±)。

2 防除上注意すべき事項

調査で確認されたダニは、リンゴハダニが優占種であった。

不要な枝を剪除して、樹全体に薬液が十分かかるようにする。

園内をよく観察し発生が多い場合には、県防除基準(訂正版) p.172にしたがい殺ダニ剤を散布する。ただし、同一系統薬剤の連用は避け、早生、中生品種では収穫前日数に注意すること。

その他病害虫の発生動向と防除対策

リンゴ腐らん病

不順天候のため各地方で発生量が増加している。収穫時に「つる折れ」や「つる抜け」として残った果柄から病原菌が侵入するので、果柄が果台に残らないように丁寧に収穫する。また、腐らん病の発生が認められる園では、収穫直後に特別散布として、トップジンM水和剤 1500倍またはベンレート水和剤 2000倍を散布する。なお、罹病部の治療についてはファピイ31番を参照のこと。

モモせん孔細菌病

発生量は7月より急増している。したがって本病の発生が認められる園では、越冬病原菌密度抑制のため9月上旬(収穫終了後)から9月下旬にかけて県防除基準(訂正版) p.186にしたがい防除を徹底する。なお、詳しくはファピイ32番を参照のこと。

ナシ黒星病

9～10月は黒星病菌が再び増加し、越冬病原菌密度が高まるので、幸水収穫終了後および豊水収穫終了後（9月下旬～10月上旬）に県防除基準（訂正版）p.202にしたがい防除を徹底する。ただし、耐性菌の出現が懸念されるため、トリフミン水和剤を含むE B I剤は年3回まで、ストロビルリン剤は年2回までの使用にとどめる。なお、詳しくはファピイ33番を参照のこと。

ナシ黒斑病

先月に比べ平均発病葉率が高くなっている。調査は場全園で発病が確認されている。被害葉は翌年の伝染源となるので、落葉後に集めて土中に埋没する。また、果実袋内で感染し落果した果実は、園外に持ち出すようにする。

カイガラムシ類

ナシでクワコナカイガラムシの発生があった園では収穫後に9月いっぱいまでに枝幹部でバンド誘殺を行う。

コスカシバ（モモ）

本種の寄生が認められる園地では、収穫後、県防除基準（訂正版）p.186にしたがい薬液が樹幹部に十分量かかるように薬剤散布を行う。

チャハマキ

県北地方の一部のナシ園では、チャハマキによる果実被害が確認されている。本種の幼虫は、リンゴモンハマキやリンゴコカクモンハマキより大きい。本種成虫の発生時期および防除時期も、リンゴモンハマキより遅れるので、注意が必要である。ハマキムシ類の発生がみられる場合には、発生種を把握したうえで、防除を行う。

C 野菜 発生予報と防除対策

キュウリ ベと病 (夏秋露地)	地 方	県 北	県 南	会 津	浜 通 り
	発 生 量	並			-

1 予報の根拠

8月下旬の巡回調査では、多くのほ場で発生が認められたが、発生量は平年並であった（±）。天候予報によると、向こう1ヶ月の気温、降水量ともに平年並である（±）。

2 防除上注意すべき事項

防除対策については、県防除基準（訂正版）P.92を参照する。

キュウリ うどんこ病 (夏秋露地)	地 方	県 北	県 南	会 津	浜 通 り
	発 生 量	並			-

1 予報の根拠

8月下旬の巡回調査では、発生ほ場率、発病葉率ともに平年並であった（±）。天候予報によると、向こう1ヶ月の気温、降水量ともに平年並である（±）。

2 防除上注意すべき事項

薬剤散布にあたっては、薬剤耐性菌の出現を防止するため、同一系統の薬剤を連用しないように注意する。

防除対策については、県防除基準（訂正版）P.92を参照する。

キュウリ 褐斑病 (夏秋露地)	地 方	県 北	県 南	会 津	浜 通 り
	発 生 量	やや多			-

1 予報の根拠

8月下旬の巡回調査では、全ての調査ほ場で発生が認められ、過去4年と比較して発生ほ場率、発病葉率ともに高かった（+）。

天候予報によると、向こう1ヶ月の気温、降水量ともに平年並である（±）。

2 防除上注意すべき事項

本病は、降雨が連続すると多発するので発生初期より防除を徹底する。

本病は、草勢が低下すると発病しやすくなるので、肥培管理には十分注意する。

防除対策については、県防除基準（訂正版）P.92および「ファピイ」情報番号41番を参照する。

トマト 葉かび病 (夏秋被覆)	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 量	-	並	-	

1 予報の根拠

8月下旬の巡回調査では、調査地域のほとんどのほ場で発生が認められたが、発生ほ場率、発病株率はともに平年並であった(±)。

天候予報によると、向こう1ヶ月の気温、降水量ともに平年並である(±)。

2 防除上注意すべき事項

本病は、草勢が低下すると発病しやすくなるので、肥培管理には注意する。

薬剤散布にあたっては、薬剤耐性菌の出現を防止するため、同一系統の薬剤を運用しないように注意する。

防除対策については、県防除基準(訂正版)P.77を参照する。

トマト 灰色かび病 (夏秋被覆)	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 量	-	やや多	-	

1 予報の根拠

8月下旬の巡回調査では、平年と比較して発生ほ場率がやや高く、調査地域のほとんどのほ場で発生が認められた。また、発病果率が10%を超えるほ場も散見された(+)。

天候予報によると、向こう1ヶ月の気温、降水量ともに平年並である(±)。

2 防除上注意すべき事項

本病は、20程度の温度と多湿条件で発生が多くなるので、換気を十分行う。

薬剤散布にあたっては、薬剤耐性菌の出現を防止するため、同一系統の薬剤を運用しないように注意する。

防除対策については、県防除基準(訂正版)P.77および「ファピイ」情報番号42番を参照する。

タバコガ類(ピーマン)	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 量	並	-	-	

1 予報の根拠

8月上旬の巡回調査によると、タバコガ類による被害果率は平年並であった(±)。

2 防除上注意すべき事項

薬剤散布にあたっては、薬剤抵抗性の出現を防止するため、同一系統の薬剤を運用しないように注意する。

防除対策については、県防除基準(訂正版)P.90および「ファピイ」情報番号45番を参照する。

イチゴ うどんこ病 (育苗床)	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 量	やや多	-	-	

1 予報の根拠

8月上旬の調査によると、過去4年間と比較して、発生ほ場率および発生程度が高かった(+)。

夏期に冷涼な気候が続き、越夏した伝染源量が多いと考えられる(+)。

2 防除上注意すべき事項

防除対策については、県防除基準(訂正版)P.105および「ファピイ」情報番号43番を参照する。

オシツコナジ テミ(イチゴ) (育苗床)	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 量	やや多	-	-	

1 予報の根拠

8月上旬の調査によると、調査ほ場全てで寄生が確認された(+)。

2 防除上注意すべき事項

防除対策については、県防除基準(訂正版)P.107および「ファピイ」情報番号43番を参照する。

リンドウ 花腐菌核病	地 方	県 北	県 南	会 津	浜通り
	発 生 量	-	やや多	-	

1 予報の根拠

8月下旬の調査によると、本病の菌核上に子実体が形成されており、子実体の発育程度が胞子を飛散させるまで進んだものが確認された(+)。

天候予報によると、向こう1ヶ月の気温、降水量ともに平年並である(±)。

2 防除上注意すべき事項

防除対策については、県防除基準(訂正版)P.281および「ファピイ」情報番号62番を参照する。

ハダニ類 (キュウリ、ナス、イチゴ、キク)	地 方	県 北	県 南	会 津	浜 通 り
	発 生 量	並			

1 予報の根拠

8月下旬の巡回調査では、各作物ともに多くの調査ほ場で発生が認められたが、発生量は、平年並であった(±)。

2 防除上注意すべき事項

防除対策については、下記を参照する。

作目名	ファビィ(情報番号)
キュウリ	41
ナス	49
イチゴ	43
キク	61

オオタバコガ (トマト、キク)	地 方	県 北	県 南	会 津	浜 通 り
	発 生 量	やや多			

1 予報の根拠

8月下旬の巡回調査では、県南及び会津のトマト調査ほ場で寄生が確認され、頂芽での加害も認められた。発生ほ場率はやや多く、一部でやや被害程度の高いほ場があった(+)。キクでは、県内各地で被害蓄が認められたが、発生ほ場率は平年並であった(±)。7月6半旬以降、県北、会津地方のフェロモントラップで誘殺数が過去4年間と比較して多い傾向があった(+)。

2 防除上注意すべき事項

防除対策については、下記を参照する。

作目名	ファビィ(情報番号)
トマト	42
キク	61

その他病害虫の発生動向と防除対策

キュウリ つる枯病

8月下旬の巡回調査では、県内のほとんどのほ場で発生し、葉及び茎で病斑が認められた。

本病は、病原菌の発育適温が20~24℃、多湿の場合発生が多くなり、まん延しやすい。向こう1ヶ月の天候予報によると、気温および降水量は平年並と予想されており、今後の発生動向に注意する必要がある。

発生前から防除を行い、予防散布を徹底する。また、被害株は除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

ハモグリバエ類(トマト)

8月下旬の巡回調査では、調査ほ場の多くで寄生が認められ、寄生程度が高かった。

県南地区の数地点で発生種を確認したところ、マメハモグリバエであった。近県では、トマトハモグリバエの発生が確認されており、本県への侵入も警戒されることから、被害が収まらない場合は病害虫防除所へ連絡して下さい。

防除対策については、「ファビィ」情報番号42番を参照する。

天候予報

向こう1ヶ月(平成15年8月22日仙台管区気象台発表)の平均気温、降水量、日照時間とともに平年並の見込みです。

お 知 ら せ

昨年、無登録農薬が全国的に流通し、使用されている実態が明らかとなり、国民の「食」に対する信頼を損なう大きな問題となりました。

このため、昨年12月に農薬取締法が改正され、3月10日からこの改正法が施行されました。

主な改正点は、無登録農薬の製造、輸入、使用的禁止(販売は従来から禁止)、農薬使用基準に違反する農薬使用の禁止、罰則の強化などであり、農薬を製造・輸入・販売・使用するすべての国民に関係する内容です。

農家だけでなく、家庭菜園や花壇や芝の手入れをする方であっても、農林水産省の登録番号のある安全性の確認された農薬を、ラベルをよく読んで使うことが必要です。

無登録農薬はみんなで排除しましょう。

詳しい農薬情報は、農林水産省ホームページ(<http://www.maff.go.jp/nouyaku/>)の「農薬コナ -」をご覧下さい。

病害虫防除情報ファクスサービス「ファッピイ」

情報分類	情報発表日	情報番号	情報提供機関
総合案内	2003年 8月28日	0-0308-08	福島県病害虫防除所
情報タイトル		枚数	作物名
病害虫防除情報ファクスサービス「ファッピイ」の総合案内		1	共通

情報の種類と情報番号

情報の種類	番号	発表日	情報の内容	枚数
総合案内	0	8月28日	情報の種類、内容、発表日を示す	1
発生予察情報			(本県で発表した最新の発生予察情報など)	
定期予報	10	8月28日	平成15年度発生予報第8号	9
注意報	13	6月 6日	平成15年度発生予察注意報第1号	1
注意報	14	7月25日	平成15年度発生予察注意報第2号	3
警報	15	8月13日	平成15年度発生予察警報1号	2
防除情報			(病害虫の具体的な発生データや防除対策など)	
水 稲	21	7月 4日	紋枯病の早期発見と防除対策	1
"	23	8月11日	イチモンジセセリ(イエツムシ)の発生状況と防除対策	1
"	25	7月29日	稻こうじ病の防除対策	1
"	26	7月31日	斑点米カメムシ類の発生状況と防除対策	2
"	29	8月28日	出穂時期と穂いもちの防除対策	3
大 豆	24	7月16日	ハスモンヨトウの発生状況と防除対策	1
"	27	8月 7日	大豆の主なアブラムシ類と防除対策	1
"	28	8月 7日	大豆の主な子実病害虫と防除対策	3
果 樹	30	8月27日	果樹病害虫総合(8/25・27発表の情報をまとめてあります)	3
"	31	6月 6日	リンゴ腐らん病の防除対策	2
"	32	8月27日	モモせん孔細菌病の発生状況と秋期防除対策	1
"	33	8月27日	黒星病の発生状況と秋期防除対策	1
"	36	8月25日	ナシヒメシンクイの発生予測と防除対策	1
野 菜	41	8月28日	夏秋キュウリ(露地)の病害虫発生状況と防除対策	2
"	42	8月27日	夏秋トマトにおける病害虫の発生状況と防除対策	3
"	43	8月15日	イチゴの仮植床における病害虫の発生状況と防除対策	2
"	45	8月28日	夏秋ピーマンにおける病害虫の発生状況と防除対策	1
"	46	8月28日	サヤインゲンにおける病害虫の発生状況と防除対策	1
"	49	8月28日	夏秋ナスにおける病害虫の発生状況と防除対策	1
"	50	5月29日	冬春キュウリ(施設)の病害虫の発生状況と防除対策	2
花 き	61	8月28日	キクにおける病害虫の発生状況と防除対策	2
"	62	8月25日	リンドウ花腐菌核病の感染源形成状況と防除対策	1
その他の	63	4月28日	キュウリホモブシス根腐病の発生状況と防除対策	1
"	64	7月31日	オオタバコガの発生状況と防除対策	1
"	65	7月16日	ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺数	1
農 薬	71	7月 7日	平成15年1月～6月に登録が失効した農薬	5
"	78	6月 6日	展着剤の使用について	1
"	79	8月27日	農薬の容器又は包装の誤表示について	5
BLASTAM	80	火、金曜	イネいもち病(葉いもち)感染好適条件出現状況	1
"	85	6月24日	B L A S T A Mの判定基準と留意点	1
気象情報	90	金曜夕方	金曜発表の1ヶ月予報、金曜発表の週間予報	2

は最新の情報であることを、 はこれまでに発表した情報であることを示しています

FAX の操作方法

お手元のFAXから「024(923)2010」に電話する。

ダイヤル回線の場合のみ「トーン(*)」または「PB」ボタンを1回押す(入力信号をブッシュ信号に切り替える。ただし機種によって切り替えボタンが異なりますので、FAXの取り扱い説明書を参照ください)。

音声案内に従い^{注1)}、取り出したい情報番号^{注2)}に続けて、「シャープ(#)」を押す。

「ピー」の音がしてから、通信ボタン(「受信」や「スタート」ボタンなど)を押す。

受話器を置く。

注1) 音声案内中でも、情報番号の入力はできます。

注2) 情報番号がわからない場合でも、FAXの通信ボタンを押すだけで、総合案内の情報を取り出せます。

お知らせ

3月10日から改正農薬取締法が施行されました。主な改正点は、無登録農薬の製造、輸入、使用的禁止(無登録農薬の販売は従来から禁止)、農薬使用基準に違反する農薬使用的禁止、罰則の強化などです。農薬は農林水産省の登録番号のあるものを、ラベルをよく読んで使いましょう。詳しい農薬情報は、農林水産省ホーミング(<http://www.maff.go.jp/nouaku/>)の「農薬コナ」をご覧下さい。

情報内容への質問や要望は病害虫防除所までご連絡ください。

TEL : 024-938-4242 FAX : 024-923-2012 e-mail : kfsm0301@sp.jppn.ne.jp

病害虫防除情報は、ファクスサービス(FAX : 024-923-2010)で取り出せます。また病害虫防除所ホームページ(アドレス <http://www.aff.pref.fukushima.jp/fappi/index.html>)でも見ることが出来ます。